りべら（Libella）はラテン語でトンボの意味です。あおぞら財団はトンボが飛び交うまちの再生を願って活動しています。

2015.5
136号

りべら

りべら 2015.5 136号

発行所：公益財団法人公害地域再生センター（あおぞら財団）
〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階

特集：あれから20年
西淀川の震災から…1
震災から20年～神戸市・長田区御蔵通の現在 宮定 章…3
20年を隔てて 上田 敏幸…5
忙中一筆 栂 紀久代…5
公害資料館連携に原因企業が参加しました！…6
関西×東北応援ツアーのこれまでとこれから…7
被災地の未来を考える…8
おもろいわ西淀川 アワード2014トップ6発表…9
西淀川記憶あつめ隊：中田重幸さん…11
ぶらりとゆるりと西淀川めぐり…12
ニシヨドガワ ノラシゴト第2回…12

ニシヨドガワ ノラシゴト第3回で満開に咲く菜の花のお花見
（㈱ニチノーサービスの造成畑にて）

あおぞらフォトギャラリー

まちづくり
あおぞら野菜市でもちつき（2015.1.28）

環境学習
公害の語り部さんに授業をしてもらっています
（2015.3.10大阪市立姫里小学校）

国際交流

中国の環境NGO訪問。ヒアリングしてきました。（2015.3.7）

お知らせ

【中島水道サロン主催】

●歩こう！中島大水道あとを

情報満載の「中島大水道マップ」完成披露まち歩きです。

〔西淀川編〕
日時：5月31日（日）14：00～16：00
集合場所：阪神なんば線「福」駅

〔新大阪編〕
日時：6月27日（土）14：00～16：00
集合場所：新大阪駅　千成ひょうたん前
参加費：各回500円（資料代・保険代など）

【あおぞら財団主催】

●ご好評につき、あおぞら野菜市、拡大！

今まで月1回の開催でしたが、好評につき今月から月2回開催することになりました。「毎月第2・第4水曜日は、あおぞら野菜市」と覚えてくださいね。

日時：5/13、5/27、6/10、6/24、7/8、7/22、8/26、9/9、10/14、10/28、11/11、11/25、12/9　※8/12、9/23、12/23はお休み
開催時間：10:00～13:30（順次開店）【雨天決行・荒天中止】
場所：あおぞらイコバ（あおぞらビル1Fの地域交流スペース）
　　最寄駅JR東西線「御幣島（みてじま）」駅⑪出口スグ
※開催は予告なく変更する場合がありますので、詳しくはお問い合わせください。
※出店者も絶賛募集中
　野菜市で一緒に素敵なお店を出しませんか？野菜や雑貨、その他応相談。1スペース500円。

あおぞら財団とは

〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階
（TEL）06-6475-8885（FAX）06-6478-5885
電子メール:webmaster@aozora.or.jp　http://aozora.or.jp/

1960年代から問題となった大気汚染公害によって、多くの人が健康被害を受けました。その責任を問う西淀川公害裁判（1978～1998）では公害患者が勝利しました。患者は「手渡したいのは青い空」を願い、裁判の和解金の一部を使って1996年にまちづくり組織・あおぞら財団を立ち上げました。まちづくり・資料館・環境学習・公害患者の保健・国際交流の事業を行い、持続可能な地域づくりに取り組んでいます。

あおぞらビル

【1F】地域交流スペース「あおぞらイコバ」
会議、ギャラリー、コンサート、上映会などにご利用いただけます。
午前：1,000円／午後：1,300円／夜間：1,300円／全日：3,000円

【5F】西淀川・公害と環境資料館（エコミューズ）
西淀川公害や環境について、地域の歴史などが知りたい人はぜひお越しください。
開館日 月曜日と金曜日（10：00～17：00）／要事前電話予約
●いずれも、予約・お問い合わせは4F事務所へ

会員・寄附募集

あおぞら財団への寄附や賛助会費は、税制上の優遇措置があります。

●賛助会員　会員の方には機関紙「りべら」などをお送りします。
【年会費】個人：年一口5,000円、学生：年一口2,000円、
　　法人・団体：年一口10,000円

●会費・寄附の振込先
＊郵便振替口座 00960-9-124893　加入者名：あおぞら財団
＊三菱東京UFJ銀行 歌島橋支店　普通 3764689
　口座名義：あおぞら財団賛助会員

特集

あれから20年

西淀川の震災から

今から20年前の年に何があったか覚えてますか―あおぞら財団、西淀川にとっては忘れられない年です。1995年（平成7）1月17日に阪神・淡路大震災が発生し、ここ西淀川区でも大きな被害が発生し、地面が割れ、あちこちで液状化も…。

それから数カ月後。車からの排ガスと工場からの排煙で汚れた西淀川の空、これを取り戻すための西淀川公害訴訟で、関西電力などの企業9社と「企業和解」が成立。それが1995年3月2日。

あれから20年。あのときどうだったのか、改めて、振り返ってみたいと思います。そしてこれから、2016年度には、あおぞら財団は20周年を迎えようとしています。私たちは、将来に向けて何をすべきか、少しずつ考えていきたいと思います。

「教訓を活かしてほしい」

濱田聖光さん（西淀川区姫里在住）のお話より

私たち夫婦と娘の3人で暮らしていた自宅で被災しました。吊り下げ式の蛍光灯が天井にあたるほどの揺れに飛び起き、寝ていた娘を避難させた直後に、その場所に本棚が倒れてきました。近所では、液状化で電柱の根元から白い砂が10㎝程吹き上げており、あちこちでガス漏れが発生。急いで、カレンダーの裏面に「火を使うな」と書いて貼りだしました。

それから始まった避難生活も大変でした。仮設住宅、市営住宅での生活を経て、ようやく姫里に戻ってきました。仮設住宅では、夏の暑さ、神崎川からの冷たい風、屋根に響く雨音に悩まされました。人の優しさにも触れました。自宅の修理を引き受けてくれた工事会社にはお世話になったし、2日間避難した公民館でいただいたイチゴはおいしかったなぁ～。

災害で、住まいや収入を失ってから立ち直るまでには時間もかかるし、個人の力だけではどうしようもないことがたくさんある。私も「あの時、どうすべきだったか？」と答えの出せないこともある。こうした経験が孫子の世代へ教訓として活かされれば、と思う。

塀の倒壊が区内各所で見られた
（写真は御幣島５丁目の工場の塀）

煙突が倒れた銭湯（御幣島４丁目）

液状化現象で泥に埋まった玄関
（佃1丁目）

1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災よって大阪市内（震度4）でも被害が発生し、特に、西淀川区、淀川区、此花区、福島区、港区、大正区など、市北西部の臨海地域や河川沿いで大きな被害をもたらしました。

西淀川区では、淀川の右岸堤防は最大約２ｍ沈下し、堤防道路には大きな亀裂が発生、佃島、淀川沿い、神崎川左岸などを中心に、外壁に亀裂、屋根瓦の一部が落ちるなどの建物被害がおこり、全壊は　54世帯、半壊は１１１８世帯におよび、火災は４件、区内各所で液状化現象が発生し、下水道の破壊でトイレが使えなくなった地域もあり、区内の公的施設11ヶ所が避難所となりました。兵庫県下の被害があまりに大きかったために、当区内の被害状況が新聞・テレビ等に取り上げられず「救援の谷間」となっていました。また、区内には、応急仮設住宅が御幣島（２０４戸）と百島（80戸）に建設され、多くの方が避難生活を送られました。

海や川に囲まれた西淀川区は、室戸台風（１９３４年）、ジェーン台風（１９５０年）、第二室戸台風（１９６１年）など、これまで何度も自然災害による被害を受け、その度に立ち上がってきました。阪神・淡路大震災から20年、今度は、南海トラフ巨大地震の被害想定（２０１３年10月30日大阪府発表）が公表され、さまざまな防災対策が進められています。過去の経験に学びつつ、被害を少しでも減らすための減災まちづくりに、地域の方々や行政・企業等と協働しながら、あおぞら財団も取り組んでいきたいと思います。藤

参考文献）
・阪神・淡路大震災 大阪市消防活動記録（発行：財団法人 大阪市消防振興協会、平成８年1月）
・小さな街の大きな被害「西淀川の震災展」の記録（発行：「西淀川の震災展」を成功させる実行委員会、1997 年6月17日発行）

所蔵）エコミューズ
写真）北山良三氏

「今度は、命を守るのが使命」

原博美さん（西淀川区佃在住）のお話より

長女の茉凛（まりん）さんは一緒に保育士として働いています。

次女が生まれて4日目に入院中の千船病院（佃）のベットの上で震災に遭遇しました。激しい揺れで目を覚まし、逃げなきゃと思いつつも動けませんでした。揺れが収まってから、子どもを見に行くと、スヤスヤと眠っていてホッと一安心。しばらくすると、病院には怪我人が来られており、大変なことになっているとわかりました。佃にある自宅マンションは無事でしたが、水道がとまっていたので近くのお宅で井戸水を分けていただきました。しばらくは、近くのスーパーから食材がなくなっており、長女（1歳8ヶ月）の食べ物を心配する日々が続きました。次女は今年でちょうど20歳になり、助産師をめざしています。

現在、私自身は、乳幼児を預かる小規模保育所「ゆりかごハウス」（NPO法人おひさま）を運営し、月に２回は避難訓練を行っています。あの時の経験から、災害の怖さが身に染みており、今度は「命を守るのが使命」だと思って取り組んでいます。

水道管、ガス管、下水道等の損傷は各地で続出しました。写真は、水道水の噴出で水浸しになり、家屋への浸水を食い止めようとしていところ

淀川右岸堤防は西島付近で750mにわたって大きく地割れ。
道路右半分が最大2m落下

あれから20年

震災から20年

～神戸市・長田区御蔵通の現在

認定 特定非営利活動法人
まち・コミュニケーション 宮定 章

御蔵通　昔の町並（株式会社アーバン・プランニング研究所提供）

阪神・淡路大震災から20年が経過し、全国の方々の応援により、神戸は近代的で立派な町並みが出来ています。この書面を借りてですが、お礼申し上げます。ありがとうございます。

さて、当団体が事務所を置き、復興まちづくりに携わってきた神戸市・長田区御蔵通は、震災前、住宅（約300世帯）・工場・店舗の混在する下町でした。そこに、震度7の地震が襲い、その後の火災で地区の8割が延焼するという被害を受けました。一人でも多くが戻って来られるよう”下駄履きで歩けるまち“を目指して、住民の方々が毎夜のように会議を重ね復興まちづくりに、取り組みました。共同住宅の再建や公営住宅を要望し、多くの住宅が建ちました。公営住宅の再建には、土地の整備等もあり、4年を要しました。震災時200世帯の入居対象者がいたにも関わらず、完成後の住宅には、20世帯しか入居しませんでした。工場・店舗を含めた従前の方が戻ってきたのは27・3％に過ぎず、災害後”ふるさと（従前地区）“に戻ることの難しさを実感しました。

新しい住民が増え、現在の人口は震災前の8割まで戻りました。住民が入れ替わり、地域づくりの楽しさ・難しさが、混在しています。それは、都市の魅力かもしれません。

さて、東日本の沿岸部ではどうでしょう。人口が流出しています。新住民の流入も、今のままでは望めず、地区の持続的運営が大変な状態にあります。そのような状態の一つの地区である宮城県石巻市雄勝町から「このままではまちが無くなる！」と、神戸までわざわざ23歳（2012年当時）の若者が、助けを求めにやってきました。

神戸で、従前居住者を追いかけた悔しい経験を生かし、生活再建支援がしたいと、すぐに寝袋を車に入れ、東日本へ出発しました。三陸沿岸の漁村で20日／月滞在しています。生活再建に想いを込めるためのヒントを探るため”何を失い“”何を取り戻すのか“を、今は漁師作業等を一緒にしながら、聴き取りをしています。

ご存じのように、災害では、”今まで当たり前にあったもの“を、突然失います。被災後の復興まちづくりでは、”何を取り戻したいのか“を、自分の回りの人々（近隣の人々、自治体職員、外部の応援団等）へ、説明する必要がでてきます。しかし、失ってみると、”今まで当たり前にあったもの“は、当たり前であったばかりに、中々、何を取り戻したいのか伝えることは、難しいです。

東南海地震では、私たちの神戸も、皆さんの大阪も、被害を受けると言われています。その備えは日常の当たり前の生活をしっかり見直し、隣近所の大切さを日頃から実感しておくことが大事だと、2つの被災地（神戸・東日本）を通じて実感しています。

私自身も、毎日を楽しく過ごし、振り返りながら、仲間づくりを心がけて暮らしています。

先日は、大阪の佃を訪問させていただき、仲間に誘われ、その後、江戸の佃にも行って来て、たくさん仲間ができました。現在の被災地（東日本）、過去の被災地（阪神・豪雨水害地）、未来の被災地（関東・四国等）における当団体の復興まちづくりに関する取り組みをフェイスブックで、発信していますので、ご覧頂ければ幸いです。

ワカメの作業をしながら聴き取り（右：筆者）

まち・コミュニケーション https://www.facebook.com/machicomi

あれから20年

20年を隔てて

西淀川公害患者と家族の会事務局長 上田 敏幸

裁判所で和解を終えてパレード

早いもので、西淀川公害訴訟の企業との和解（1995年3月3日）から今年は20年になる。膠着状態だった和解交渉は阪神淡路大震災を挟んで一気に加速したので印象深い。その後の20年に自分の老いを重ねて思いを巡らせていたら一通のメールが届いた。

「明日、早めに家族だけで主人の17回忌の法要をします」

差出人は、企業との和解後もちょっと不思議な交流が続いているかつての被告企業の総務部長Fさんの奥様。Fさんは、ウイルス性肝炎に侵され、自分の命と引き換えに西淀川と尼崎、二つの裁判を和解へ導くために心血を注ぎ、和解を見届けた後、症状が悪化して帰らぬ人となった。

Fさんとの出会いは1990年の春、提訴から12年を経て裁判は結審から判決へと向かう時期だった。

私は前年、西淀川公害訴訟の被害をまとめた冊子（『手渡したいのは青い空』）の編集をした縁で出版社を辞め、裁判の勝利を呼び込むことが使命になっていた。原告・被害者への支持と共感を広げる100万人署名の推進が主な仕事だったが、被告企業との折衝にもあたった。

西淀川公害訴訟の提訴は1978年。裁判所でのやり取りは実に100回を超えていた。裁判所に通う患者と一緒に、被告企業に早期解決の要請を重ねた。その度に事前にFさんを訪ねた。ある時、Fさんが昼食に誘ってくださって、話はお互いの過去に遡り、以前勤めていた国鉄の話をすると、Fさんが父のことを語り始めた。裁判官だったこと、国鉄の操車場を舞台に起こった弾圧事件や騒乱罪が適用されたメーデー事件に関わったことなど…。そして、「（親の勧める）司法の道ではなく、今の仕事を選んだのは…」とお父様への想いを語るFさんの目は、少し潤んでいた。

立場と主張が異なる相手と話し合う場面はしばしばあるが、それをひとつひとつ乗り越えないと物事は前に進まない。裁判で争っている相手となればなおさらで、憎悪むき出しで対立のまま終わることもしばしばだ。しかし、立場と主張の隔たりはお互い認め合いながらも粘り強く対話を続けることで、双方にある種の信頼関係が生まれる。Fさんとの間に「信頼」が芽生えた瞬間だった。今から考えると、この時が、5年かけた「折り合い」を求める行程の始まりだった。

和解から20年を隔てて、かつての被告企業と再び相まみえることになった。神戸製鋼所が神戸市灘区に建設を予定している石炭火力発電所を巡る攻防が昨年末から始まった。高炉を潰して、今ある140万kwの発電所のそばに新たに130万kwを稼働させるという。人口密集地に隣接して40年も大気を汚し続ける発生源をつくる、健康被害を引き起こすPM2・5や水銀を吐き出し、瀬戸内海に温排水を撒き散らす。患者たちは、「空気を汚すな！」「海を守れ！」と子や孫たちが生きる未来のために病体に鞭打って動き始めた。和解を目指して「最初の井戸を掘った」Fさんの死を無駄にしないためにも患者の声を届け続けたい。

企業との和解調印式

公害資料館連携に原因企業が参加しました！

第2回 フォーラムを富山で開催

富山県立イタイイタイ病資料館で開催しました。
（2014年12月6日～8日）

原因企業と被害者、県立資料館の関係者がパネルディスカッションした分科会

フォーラムの参加者は153名。
昨年から1.5倍に増えました。

フィールドワークで
土壌復元した水田を見学

公害資料館ネットワークは2013年からスタートしました。公立の公害資料館、民間の公害資料館、まちづくり組織など、公害を伝える役割を担う団体が連携して、共通の課題を解決しようとする試みです。あおぞら財団が事務局を務めています。

2013年度は新潟で連携フォーラムを開催し、連携することの大切さを確認しました。2014年度はもう一歩踏み込んで、「原因企業との付き合い方」について共通に議論しました。そして、企業との関係性では一番進んでいる富山でフォーラムを開催し、フォーラムの分科会に原因企業であった神岡鉱業株式会社を招き、公害対策について話をしてもらうことができました。このように原因企業が公開の場で公害対策を語ることは前例がなく、企業と被害者と資料館が同じテーブルでこれからの公害教育について議論する姿を見てもらえたことで、これからの公害教育の方向性を示せたのではないかと思います。

公害の関係性は被害者と原因企業、被害者と環境規制をする行政といった2極による対立になりやすく、異なる立場・対立する立場の人たちの対話は本当に難しいです。その場面に直面している公害資料館の関係者にとって、イタイイタイ病の被害者が我慢強く粘り強く対話を築いてきた経験を知ることは、自分たちもできるかもしれないという希望を持つ大きなきっかけとなりました。

まだ、ネットワークは始まったばかりです。2015年度は新しく公害資料館（四日市公害と環境未来館）がオープンした四日市でフォーラムを開催する予定です。成功体験を共有して、できていなかったことを一つ一つ解決することで、公害資料館の底上げをしていきたいと考えています。林

忙中一筆

要援護者の防災を地域密着型で考える

あおぞら財団とつながりのある人からエッセイを寄せてもらっています。地域で要援護者の防災問題に取り組み、あおぞら財団に協力・応援いただいている栂紀久代さんのエッセイです。

『命をまもる みんなで助かる 要援護者の防災を地域密着型で考える』栂紀久代（平成27年4月10日発行）

障がい者の姿を見かけなかった

私は阪神淡路大震災の時には、支援者として西宮までバイクで通っていました。避難所に行っても、障がい者の姿を見かけなかったので、きっと役所が安全なところに避難させてくれているのだろうと思っていました。

私自身障害を持ち、車いすを使うようになってからは、多くの障害のある方から当時のお話しを聞いて驚きました。避難所は、障がい者が避難できるところではなかったのです。

当時被災した障がい者から「あなたも、災害時には切り捨てられる運命だから、そのつもりで…」、この一言が気になり、要援護者の防災の調査を始め、その結果を分析し、全体像を可視化しました。

放置自転車一掃、緑化で地域の環境整備

最初は環境整備と思い、放置自転車一掃計画をメソッドで分析し「歩道は誰のもの？」プロジェクトと銘打って、阪神千船駅周辺、野田阪神駅周辺、御堂筋難波周辺、大阪駅周辺、南海堺東駅周辺では「体験型学習」から気付きに繋がる活動を始めました。今では、駅周辺は綺麗になり、歩道を歩行者に取り戻しました。

国道43号線佃6丁目の交差点には、公害訴訟で得た緑化は枯れ木が数本あるだけで歩道も整備されておらず、歩行者にとっては危険なところでした。

国土交通省の方と面談し、どうして歩道が作れないのかを聞き、緑化を移設するように提案しました。あおぞら財団の方にも、緑化を移設する計画が提案され、駅の近くに緑化スペースを広げて移設され、国道43号線には歩道がようやく出来ました。

これも、防災からスタートして環境整備をした結果です。

何かしよう！10年経つと変わります

地域の方々に読んで頂きたい本として「ユニバーサルデザインの危機管理 自助・共助・公助」を２０１２年４月に出版しました。

３年経過すると、法整備や条約の批准により社会的背景が変化したので、今年２０１５年に、「命をまもる みんなで助かる 要援護者の防災を地域密着型で考える」を出版しました。

また、地域の防災にとっては、位置情報を一元化する必要があり、ＭＭＳ（メッシュコードマップを使って位置情報を一元化できる模擬訓練）を地域が使えるように企画しています。

何もしなければ、10年経っても何も変わりませんが、何かしよう！から始まると10年経つと多くの事が変わります。

これからも地域と連携し、障がい者の視点を入れた要援護者の防災の活動を広めて行きたいと思います。

栂 紀久代（とが きくよ）
プチハウスなな 代表。ユニバーサルデザインプロデューサー、福祉コンサルタント。

関西×東北 応援ツアー

「復興支援」からその次へ 人の関わりが大きなうねりを生む

関西×東北応援ツアーのこれまでとこれから

盛土工事が進む釜石市内。向こう側はラグビーW杯2019の会場予定地。

あおぞら財団では、東日本大震災の直後にボランティアに入ったつながりを継続し、現地を訪れる「関西×東北応援ツアー」を開催してきました。第1回（2012年6月28日～7月2日）は、根浜地区に津波で流れ着いた土砂や瓦礫の撤去・運搬といった清掃作業ボランティアを行いました。まだまだ津波の爪あとが生々しく感じられた時期です。昨年の第4回（2014年11月28日～30日）では、高台移転を選択した地域や、防潮堤をさらに高くし、地域全体に約2メートル土を盛ってまちの再建をはじめた地域などで工事が進められ、ダンプカーなど工事車両が走っていました。

現地コーディネーターである「三陸ひとつなぎ自然学校（愛称＝さんつな）」代表の伊藤聡さんは「3年でできたことは、瓦礫を片付けることと、復興の計画を立てること。4年目に入ってようやく、実際にまちづくりをはじめたところ」と説明されました。

月日は流れ、状況は刻々と変わっています。当初、復興のお手伝いとしてのボランティアをプログラムの中心に据えてきたこのツアーの役割も見直す時期がきています。

そんな中、さんつなが新たに「釜石インターンシッププログラムKamaPro（かまぷろ）」という試みを開始しました（kamapro.jp）。

「KamaPro」のコンセプトは、"地域の本気のやりたい"を"本気で応援する"仕組みをつくること。外部からインターンが「本気のやりたい」企業や団体に入っていくことで、その想いを実現していく原動力となることが期待されています。

この「KamaPro」がはじまるきっかけとなったボランティアの一人・藪田悠歌さんは、財団の第3回のツアー（2013年11月開催）に大阪経済大学から参加していました。当時、「大学生活がこのまま終わってしまって良いのか…」と悩んでいた藪田さんは、ツアーでさんつなのボランティア募集を知り参加。さらには友人たちと大学生向けのツアーを企画。実に50人を集めました。

ボランティアを受け入れてきた伊藤さんは、釜石の"本気"の現場に関わった若者たち自身が、地域にかかわるとはどういうことかを肌で感じ、変わっていくことを実感したそうです。その若者自身が「自分の地元に帰ってどういうアクションを起こそうか？」と考えると同時に、遠方の地に帰った後、どう釜石とかかわりを持つかを考えるようになっていきます。

受け入れる側も、地元住民だけではなく外部から多くの人が関わることによって、大きなうねりとなって、様々な事業が加速していく。「手ごたえがあります」と伊藤さんは語ります。

「移住者や定住者を増やすのは大変だけれど、10年、20年経ってもなんらかの形で釜石に関わってくれる『関係人口』が増えることで釜石に活気が生まれるのではないか」―と。

財団のツアーはたった2泊3日ですが、人との出会いが魅力となり、リピーターが何人もおられます。訪れる一人ひとりの個性やパワーが現地の人たちと出会って化学反応を起こし、新しい何かを生み出すきっかけをつくることが、ツアーの役割ではないかと思います。

釜石は2019年ラグビーワールドカップの開催地に決定、橋野高炉跡の世界遺産登録間近と、今、なにかと話題です。釜石のまちの土盛りが終わり建物が再建されるのは早くても2016年、集落によっては2017年以降までかかります。新たなまちを生みだす"本気"に満ちた釜石を訪れてみませんか？　みなさんのご参加をお待ちしています！ 栗

2014年度ツアーで漁師さんのお手伝い。ホタテの貝殻の根元についているヒモをとる作業。意外と難しい！

お昼は地元のお母さんとチャンチャン焼きづくり

伝統芸能「虎舞」に2歳の虎が！お父さんの踊っている動画を繰り返し観て踊りを覚えてしまったそうです。

ホタテの加工作業のお手伝い後、漁師さん（前列右から3番目）と。中列左から2人目が伊藤さん。

橋野名物「峠のカレー」をつくる小笠原静子さん（中央）と藪田さん（右）。静子さんは本当に人気者。再会したくて再びツアーに参加された方も。

【予告】
関西×東北 応援ツアー

2015年11月27日（金）～29日（日）　集合・解散:仙台駅周辺
- ボランティアセンター一泊体験コース　3万2000円
  （ボランティアセンター滞在費として2000円寄付金を含む。もう一泊は宝来館）
- 浜辺の料理宿・宝来館二泊コース　3万8000円

現地コーディネーター　三陸ひとつなぎ自然学校　お問い合わせ　あおぞら財団

vol.3

被災地の未来を考える

フォトジャーナリスト
一般社団法人 United Green 代表
山田 周生

バイオディーゼル燃料を使ってガソリンスタンドに一度も寄らず車で地球一周したのち岩手で震災に遭遇。現在、岩手県釜石を拠点に支援活動を続け、海と山をつないだ未来循環型の地域づくりに力を注いでいる。

2015年3月11日。震災から4年がたちました。岩手県釜石市の根浜海岸で、地元の方と追悼の祈りとキャンドルナイトを行いました。14時46分まで、津波から生き残った松の木と海をのぞみ、冷たい風が吹くなか手を合わせ、全国から届いたろうそくを灯しました。

ここ数年、地元の若者が行っているのが「命日に心に浮かんだ文字をキャンドルでつくろう」というもの。2013年は「絆」、2014年は「未来」。そして今年、2015年は「進」。

彼らの目に涙はありませんでした。いくつもの困難や悲しみとぶつかりながらも、今年彼らが選んだ「進」という文字。その一文字に、静かな希望を感じずにはいられません。

いっぽう、大震災は全国的に風化の一途を辿っていると感じています。復興していく地域づくりは始まったばかりであり、この経験をどう継承していくのかも、まさにこれからにも関わらず。あの時受けた心の衝撃は、どう活かされているのでしょうか。震災から4年。変わったこと、変わらなかったこと。自分と地域、そしてこの国。それぞれに対して、もう一度問い直してみたい。

おもろいわ西淀川 発信しています

アワード2014 トップ6発表！

西淀川はとても面白い地域です。街工場が点在しており、昭和の香りが漂う街並みが残っています。街の面白さを写真で切り取って紹介することで、西淀川を再発見する取り組みを2013年から始めています。フェイスブックに「おもろいわ西淀川」のページを作り、写真とコメントを投稿しています。フェイスブックには、「いいね！」という機能があり、良いと思ったものや共感した人が「いいね！」ボタンを押してくれます。「いいね！」の数を集計した、2014年おもろいわ西淀川アワードトップ6を発表します。さあ、西淀川のおもろいわをごらんあれ！ 林

1位 いいね！77

「長ーい押しボタン」

関西スーパー前、淀川通り沿いに設置されている押しボタンが何ともユニークです。横断歩道横まで電柱から長ーくのびています。信号待ちの間「ちょっと休憩いかがですか？」と、止まり木の役目もする働き者！ ―場所: 西淀川区大和田2丁目

2位 いいね！69

「激安自動販売機」

御幣島1丁目アソシアード御幣島というマンションのすぐ近くにとても安い自動販売機があります。なんと全ての商品が100円でおつりが出る安さです！ 一番安い缶ジュースは30円の大特価！！七福神の装飾も縁起が良いですね☆ ―場所: 御幣島1丁目

3位 いいね！66

「自然浴さんぽ路」

緑陰道路、2号線近くの自然浴さんぽ路。「踏んで歩いてイキイキ健康！」と書かれた看板によると連続歩行は20～30分を目安に、との事ですが…裸足で2.3歩、靴下を履いて一周が限界でした。刺激が足りない方、是非お試し下さいませ。 ―場所: 大野川緑陰道路

4位 いいね！66

「Puれいは～つ」

町工場が並ぶ御幣島3丁目にポップな工場発見！と思ったら違いました。「Puれいは～つ」は工場を改装、面影をしっかり残すお洒落な美容院です。店内のカウンターは工場で使われていた物をリメイク、壁面には芸大出身のアーティスト達で描かれた動物達や、何も出ない蛇口。隅々まで遊び心に溢れていました！ http://www.playhearts.jp/
―場所：御幣島3-8-16

5位 いいね！63

「駄菓子屋バンビ」

歌島プラザ下にある駄菓子屋バンビ。100円あれば両手一杯のお菓子が買える！と、いつも子供達で賑わっています。ガラスのドアには『町たんけん』イベント時の写真が貼られています。
―場所: 歌島3丁目（歌島プラザ）

6位 いいね！60

「ツンデレガール」

西淀川でいちばん可愛いツンデレガールがいた！西淀病院の角にちょこんと佇む小さな女の子。首をプイッと横に向けながら、差し出したかばんには・・・「名刺入れ、御意志、必ず伝えします」ツ、ツ、ツンデレ。（笑）今度いれてみよ。 ―場所: 西淀病院

おもろいわ西淀川
https://www.facebook.com/omoroiwa
2015年度は「おもろいわ西淀川コンテスト」を開催して、投稿してもらおうと考えています。お楽しみに

おもろいわ西淀川記者からひとこと 佐々木 真弓

「おもろいわ西淀川」の記者を担当し、1年が経ちます。この1年で今まで見過ごしていた街の風景や、知らなかった歴史、西淀川らしい「おもろい」ところを見つけ発信してきました。そうすると不思議です！いつの間にか、人の繋がりが縦横に広がっているのです。西淀川在住7年にして初めての体験でした。楽しい事って伝染するのですね。これからも誰かに話したくなるような面白くて温かい西淀川の魅力をお伝えできるといいなと思います。

佐々木オススメ記事 わがし屋よだもち

西淀川に昔からある和菓子屋の小売店の情報です。新しいのに地域の繋がりもあることを感じる記事です。

あおぞら財団すぐ近く千舟2丁目に昨年の秋にオープンしたお洒落な和菓子屋さん。素敵なご夫婦が経営されている「わがし屋よだもち」。ピンクの階段が目印の外観。振り子時計にスピーカーに繋がれた真空管アンプ。店内のいたる所に店主、與田光一さんのこだわりが詰まってます。和菓子のお味も絶品。みたらし団子やおはぎは注文してから仕上げてくれます。

シリーズ

西淀川記憶あつめ隊

Vol.13

おもちゃづくりのボランティアとして活躍している「シゲさん」に西淀川で育った子供時代について語ってもらいました。

中田　重幸さん

2015年4月9日
聞き取り

◆学童疎開から西淀川へ

中田重幸さんは1936年生まれの79歳です。戦争が終わったときには国民学校の3年生。海老江西国民学校(現：海老江西小学校)から広島に集団疎開をしていましたが、戦争中に国道2号線沿いにあった自宅が建物疎開で取り壊されていたために、西淀川の野里に移り住むことになりました。

◆鉄くずひろい

小学生の小遣い稼ぎは「鉄くずひろい」だったそうで、「歌島の府営住宅は工場やったから旋盤の屑(ザラリコ)が埋まってる。府営住宅の庭を掘らせてもらったり、スーパーナショナルの前は朝日電機やったから真鍮が埋まってる。真鍮は鉄より高かったからもうかったんよ」と、おこずかいは親からもらうのではなく、自分で稼いでいたそうです。

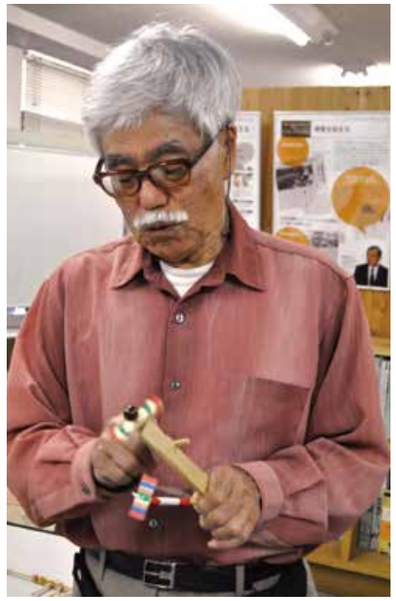
◆工場への配達のお手伝い

お父さんのお仕事は機械工具の仲卸で、中田さんは中学生のころから鉄板やナットを自転車に積んで西宮などに届けるお手伝いをしていたそうです。また、お母さんが栄食堂というお店を営み、お好み焼やかき氷、うどん、丼、弁当などを作っており、中田さんはこの出前も手伝っていました。当時は淀川製鋼が現在の歌島プラザにあり、出前を持っていったことから、淀川製鋼でアルバイトをすることになったそうです。「当時はプラスチックなんてないからタライやコップといった琺瑯(ほうろう)の器が多くて、プレスするのをやらせてもらったり、色塗ったりしてたわ」とのこと。また、「近くにあった製薬会社からは青い煙や黄色い煙がでて、臭かった。当時からトタン屋根が傷みやすくて、防火用水で飼っていた金魚も死んでしまった。祖母も公害のためかぜん息だった。」と、工場に近いからこその暮らしぶりを教えてくれました。

学童疎開先から出した手紙

◆おもちゃ作りへの思い

中田さんは、三洋電機の代理店の営業や自動ドアの営業マン、大学職員を経て、現在はおもちゃづくりのボランティアを行っています。「ものづくりは、小学校の先生から学んだ。自然いっぱいのとこで育ったし、ただでは起きひん経験があったから。いろいろ考えるんは生き抜くための知恵。役に立つんやったら少しでもおもちゃづくりを伝えていきたい」と楽しそうに笑ってくれました。(林)



中田さんが作っているおもちゃの数々。江戸時代のおもちゃを現代風にアレンジしています。

韓国家庭料理「おかみ」

超人気「あほ鍋」とはおかみ曰く、お店自慢の万能タレ「あほたれ」を使ったホルモン鍋とのこと。ベタベタな駄洒落！(笑)たっぷりのホルモンに、キャベツ、ニラ、モヤシなどの新鮮な野菜を積み上げ、「あほたれ」をかけて煮込みます。これからの季節、暑気払いにもよさそうです！

所 西淀川区大和田3-4-14
休 日曜日
営 平日17:00〜23:30
☎ 06-6472-8415

韓国家庭料理「杏」(アンズ)

イチオシの蒸し豚は油の乗り具合が絶妙！奥深い味わいのアミエビの塩辛のタレにつけ、味噌(テンジャン)と青唐辛子のスライスを乗せて、エゴマの葉とチェシャでくるんでいただきます。ママが「血がさらさらになるよ！」とオススメしてくれるエゴマの葉のほろ苦さが相まって、ヘルシーに食べられます！

所 西淀川区御幣島1-3-16
休 月・火曜日
営 17:00-24:00
☎ 06-6477-1166

burari yururi

ぶらりとゆるりと西淀川めぐり

第13回

マシイッソヨ！韓国料理

知れば知るほど奥が深い韓国料理。その中でも特にクセになる2品をご紹介します!!(栗)

(イラスト：とりやまひろこ)

ニシヨドガワ ノラシゴト

第2回

親子で始める菜の花栽培 草取り、追肥編

2015年1月30日(土)10-14時

お父さん、お母さんはノラシゴト。子どもは土遊び。
1月の寒い中、草取りや間引き作業。
鼻をすすりながら春に咲く花を目指して。
でも、子どもはちょっと退屈。
ノラシゴトのご褒美は、焼き芋。
焼きあがるまでは、目いっぱい飛ばせる
紙飛行機大会。
30分もしたら、いい匂い。
やけたよー、あちち、おいしい。
都会の中の、工場の中の、畑。
そこはこんなにも面白い。

◆場　所：㈱ニチノーサービスの造成畑
◆主　催：エコでつながる西淀川推進協議会
◆企　画：佃五丁目菜の花の会(㈱ニチノーサービス、浜田化学㈱、修成建設専門学校、あおぞら財団)
◆事務局：あおぞら財団

あおぞら広場

ありがとうございます
（2014年12月〜2015年2月　敬称略・順不同）

●入会

内山　勇人
山崎　光信

●寄附・寄贈者

遠洲　尋美
鉱毒史編纂委員会
塩貝 隆夫
株式会社あゆみ印刷デザイン
清水　万由子
植田　和弘
山崎スチール株式会社
蔵本　幸治
遠藤　宏一
脇田　武利
松村　暢彦
田中　佳世
宮崎　悦子
深見　正仁

●お助けボランティア

岡崎久女
岡村裕成
左成　志朗
山下晴美

緑道散歩

職場体験で来てくれた歌島中学校の子どもたちと一緒に植えた菜の花。満開になりました！（2015年3月26日撮影）

スタッフツィッター 編集後記

「春眠暁を覚えず」――最近どうにもこうにも、眠い。日本人の平均睡眠時間は7時間23分。働き盛りの30〜40代でも7時間。あ、一緒。おっと、気持ちを引き締めお仕事、お仕事！

退団の挨拶

小平　智子

つる舞う形の群馬県（「上毛かるた」の読札より）出身、あおぞら財団への就職で大阪に暮らしはじめ早８年。群馬弁より関西弁が出る今日この頃です。私事ですが、この春あおぞら財団を退職いたします。まずは、お世話になった皆様にお礼申し上げます。環境NPO職員という稀有な職業を通じ感じたことを２つあげます。

一つは、NPOの必要性です。この間、あおぞら財団をはじめ様々なNPOを知りましたが、今の社会でとりこぼれてしまう問題に対し、フットワーク軽く対応できるNPOの大切さと可能性を強く感じてきました。財団を設立した公害患者さんの思いや、活動に賛同して輪に入ってくださった会員をはじめとする皆さんの良心と行動力に感化され、背を押されながら仕事に向かっていたと思います。

もう一つは「あおぞら財団は皆でつくっていく」場所ということ。いろいろな人の思いがつながり合わさり、環境の活動として具体化し発展していく過程には、大変なこともありましたが感動も多く、携われたことはとても貴重で幸せな経験でした。子どもから年配の方まで、多くの方に助けられ学ばせてもらった８年間でした。この経験は私の財産であり今後に活かしていきたいと思っています。本当にありがとうございました。

あおぞら財団アンケート調査
第1弾「りべら読者アンケート」

あおぞら財団は来年2016年9月で設立20年を迎えます。これまでいろいろな活動をさせて頂きました。そして、これから私達が世の中にどのような価値を生み出していくべきかを考えたいと思います。そこで、あおぞら財団にご支援頂いている皆様から、ご意見を頂戴したくアンケート調査を企画しました。

まず第一弾として、年4回発行している機関誌「りべら」について伺いたいと思います。これまでの特集、連載企画、活動報告、レイアウト、デザインなどへご意見ください！頂いた意見は20周年を迎える来年度に反映していきます。なお、ご意見を頂いた皆様の中から抽選で5名様にあおぞら財団オリジナルグッズをプレゼント！

http://enq-maker.com/6HaCCax

あおぞら財団のホームページからもどうぞ。

西淀川菜の花プロジェクト
〜エコでつながる西淀川〜

【廃油回収量】
総合計26,942ℓ
（2009年7月から2015年3月まで）

2014年度	7,064ℓ
2013年度	7,344ℓ
2012年度	6,472ℓ
2011年度	3,986ℓ
2010年度	2,509ℓ
2009年度	1,517ℓ

現在西淀川区内外55箇所で、廃油を回収しています。
回収団体募集中。
詳しくはあおぞら財団まで。

回収拠点はのぼりが目印

西淀川菜の花プロジェクトブログ　http://nanohanany.blogspot.jp/

りべら　No.136　2015年5月号（季刊1日、年4回発行）

発行所：公益財団法人公害地域再生センター（あおぞら財団）
編集人：田代 優秋、藤江 徹
〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階
TEL 06-6475-8885　FAX 06-6478-5885
http://aozora.or.jp/　webmaster@aozora.or.jp
デザイン：㈱バード・デザインハウス
定価：一部400円（郵送料込）
会員の購読料は会費に含まれています。

本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

あおぞら財団Facebookページ「いいね！」を押してくださいね。

あおぞら財団 The Aozora Foundation 公益財団法人 公害地域再生センター

広告

ディサービスセンター
あおぞら苑

あおぞら御膳

あおぞらの湯

2006年10月1日にデイサービスセンターあおぞら苑は産声を上げました。西淀川公害裁判で四半世紀命をかけて闘った患者さんや家族のみなさまの思いが、ひとつの形になったのがデイサービスセンターあおぞら苑です。公害患者さんも高齢になり日々の生活を援助するために、また地域のみなさまが誰でも利用でき、「西淀川に住み続けて良かった。」と思えるようにとの思いがたくさん詰まった場所にしたいと思い設立しました。

【お問い合わせ】
TEL：06-6475-0111　FAX：06-6475-0114
URL：http://aozoraen.com/
運　営：NPO法人西淀川福祉・健康ネットワーク

◆あおぞら苑（事業所番号 2771001076）
〒555-0032 大阪市西淀川区大和田5丁目7番14号
開所曜日：月曜日〜土曜日（祝日は開所）　利用人数：1日18人

◆あおぞら苑II（事業所番号 2771001407）
〒555-0031 大阪市西淀川区出来島1丁目2番4号
開所曜日：月曜日〜金曜日　利用人数：1日20人

広告

Hamada Kagaku

廃棄物でお困りなら
浜田化学のコンシェルジュに
お任せください

廃食油リサイクル　使い終わった廃食油
食品残渣リサイクル　加工中に発生した食品残渣
廃棄物リサイクル　その他の廃棄物

お客様に最適なメニューをご提案いたします。

詳しくはホームページをご覧ください。　浜田化学 コンシェルジュ　検索

浜田化学株式会社　☎06-6411-3457　http://www.hamadakagaku.co.jp

〈広告募集〉企業・団体・個人の皆さま

あおぞら財団の活動周知のため
「りべら」発行部数増にご協力ください。

「りべら」は、あおぞら財団が取り組む環境活動やまちの情報を伝える機関紙として、年4回（季刊）発行し、あおぞら財団会員様をはじめ、公共施設・店舗・各種施設にて配布しています。あおぞら財団の活動拠点である大阪市西淀川区を中心に、環境問題や地域再生に取り組む様々な方々に登場いただき、環境の取り組みやまちづくり活動の輪をつなぎ、広げていきたいと思います。
現在、より多くの方に読んでいただけるよう、発行部数増をめざしています。（1500部→3000部）。あおぞら財団の活動趣旨に賛同いただき、ともに環境活動に取り組んでいただける企業・団体・個人の皆さまから「広告費」という形での協賛をお願いできればと思います。いただいた資金は、本「りべら」の紙面の充実・印刷費として活用させていただきます。あわせて定期購読、会員も募集中です。どうぞ、ご協力お願いします。

【りべら広告掲載費】
中面1/9頁：1万円/回
中面1/3頁：3万円/回
中 面 全面：9万円/回
お問合せ先：あおぞら財団まで
TEL06-6475-8885